

政府が後援して、年に一度、SRI ウィークが全国的に展開されるフランスは、世界における SRI のキープレーヤーと言えます。

そのフランスでは、SRI ファンドの資産残高を増やすことに、長年焦点が当てられてきました。実際、残高はこの 10 年で 40 倍に増えています。しかしながら、最近、SRI への取り組み方がこれまでと違った広がりを見せ、SRI ファンドへの投資以外にも 3 つの取り組み方が出てきています。それは、ESG インテグレーション、ネガティブ・スクリーニングそして株主エンゲージメント（株主行動）です。それぞれどのような取り組みか簡単にご紹介いたします。

- SRI ファンド

2013 年末現在、資産残高は 1,697 億ユーロ（約 24.6 兆円）で、2012 年末比 14%増加しました。これは、フランスの運用資産残高の 5%を占めています。年金基金などのアセット・オーナーが約 7 割に相当する 1,200 億ユーロ（約 17.4 兆円）を保有し、個人投資家も従業員貯蓄制度や生命保険を通して、500 億ユーロ（約 7.3 兆円）を投資しています。SRI ファンドの残高は今後も増加するでしょうが、これまでに比べペースダウンすると思われる。

- ESG インテグレーション

これまでの通常の財務分析などの運用手法に、環境 (E: environment)、社会 (S: social) およびガバナンス (G: governance) の観点での調査を組み合わせるものです。この手法での資産残高は 4,400 億ユーロ（約 63.8 兆円）で、フランスの運用資産残高の 15%に相当します。フランスでは、ESG の観点を取り入れる運用として、この手法が定着しつつあります。

- ネガティブ・スクリーニング

10 年前にはあまり考えられなかった手法ですが、最近フランスでも徐々に採用されています。この手法は、ESG の観点で、国際基準を著しくしかも繰り返し逸脱するような企業やあまりにも悪影響を及ぼすセクターへの投資を行わないものです。ネガティブ・スクリーニングを取り入れたアセット・オーナーや運用者は、彼らの全運用資産を対象にこの手法を適用しますので、ネガティブ・スクリーニングを行っている資産残高は 1 兆 6,360 億ユーロ（約 237 兆円）にも達します。ただ、この手法で除外対象としている企業数は限られています。

- エンゲージメント（株主行動）

非財務的分析による ESG リスクに関し、企業との対話を持つこの種の形態は、徐々に SRI 運用として1つの形を成してきており、8 機関投資家がエンゲージメント方針を打ち出しています。およそ 400 億ユーロ（約 5.8 兆円）をカバーする 340 に上るこの種の取組みは、主に汚職、労働条件および役員報酬を中心に行われています。残高的には未だ小さいものの、影響力は大きくなっています。

フランスでは、SRI はもはや国策のように見えます。ある公的年金のトップが、「我々は SRI を通して、まだフランス革命をやっているのだ」と言ったことが印象的でした。